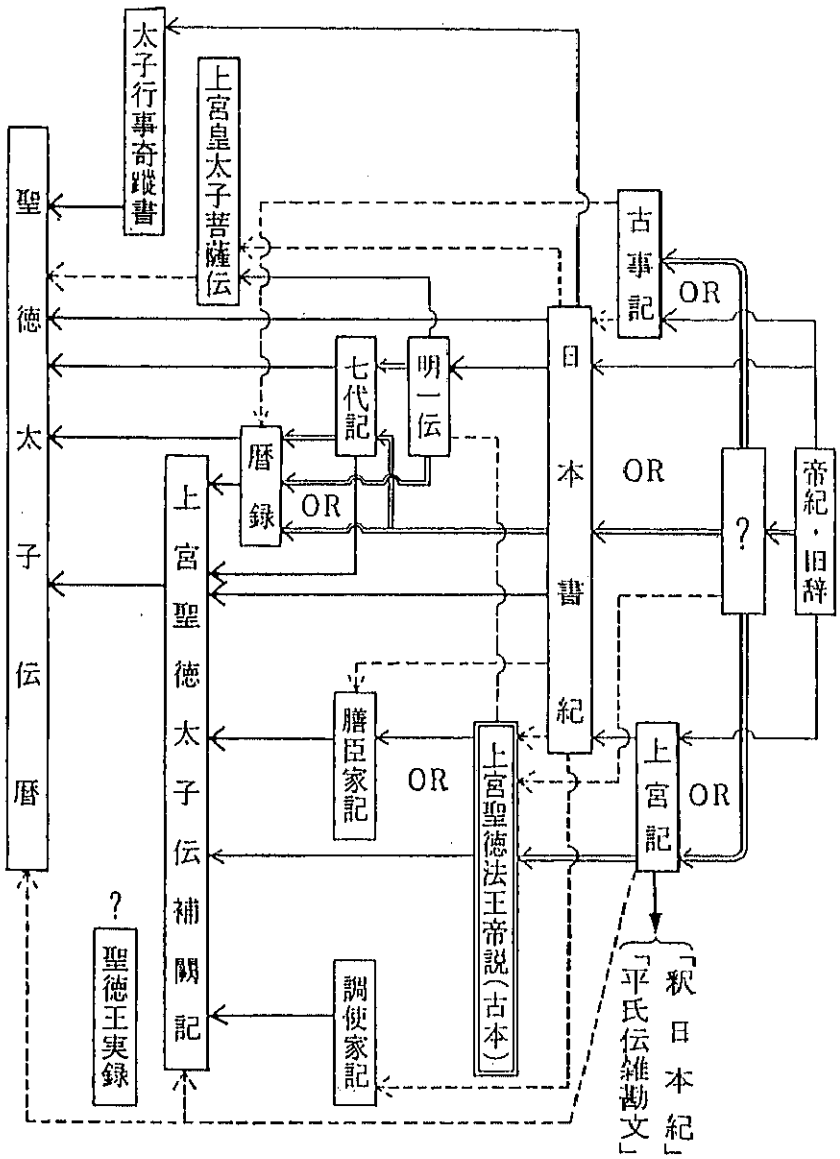
参考資料（一）諸太子伝の系統推定図（田中嗣人『聖徳太子信仰の成立』吉川弘文館、1983年、149頁、より引用）



（凡例）

現存の太子伝（逸文も含む）

現存しないが、内容のわかるもの

現存せず。内容も一切不明

OR は上下の系統線のうちで二者択一を示す

引用関係を明記するもの

引用関係の可能性があるもの

引用関係不明であるが、当然参照したと思われるもの

引用関係不明であるが、参考したかも知れないもの

参考資料（二）関連年表（参考文献：『岩波仏教辞典』、『「古事記」「日本書紀」総覧』、『新編日本古典文学全集 3　日本書紀②』）

513（継体 7）　百済から五経博士を招く＝儒教伝来。

522（継体 16）　この頃、司馬達等、来朝して大和高市郡の草堂に仏像を安置すると伝える。

538（宣化 3）　百済の聖明王、仏像、仏具、経論などを奉る＝仏教公伝（『日本書紀』では 552＝欽明 13）。

554（欽明 15）　聖明王、新羅に殺される。

562（欽明 23）　新羅が任那を滅ぼす。（日本は朝鮮半島における利権を失う。）

574（敏達 3）　聖徳太子、誕生（～622）。（法王帝説）

577（敏達 6）　百済より経論・律師・禅師・仏工・寺工渡来。

583（敏達 12）　蘇我馬子（?-626）、私宅に仏殿を造る（一説には 584 年）。

584（敏達 13）　司馬達等の娘・嶋（574-?）、出家して善信尼と称す。他に二女子も出家（出家の初め）。蘇我馬子、百済伝来の弥勒石像を善信尼らに供養させる。

585（敏達 14）　敏達天皇が歿し、用命天皇が即位。物部守屋ら、仏寺・仏像を焼き棄つ。

587（用明 2）　用明没す。蘇我馬子、諸皇子を率いて物部守屋を討つ。この時、太子軍に従い勝利を祈願して四天王像を作り造寺を誓願。（紀）

588（崇峻 1）　善信尼ら百済に留学。法興寺（飛鳥寺）の造営を開始。百済、仏舎利・僧・寺工・瓦博士らを貢ぐ。

589（崇峻 2）　隋、中国を統一。

590（崇峻 3）　善信尼、百済より帰国して桜井寺に住む。

591（崇峻 4）　紀男麻呂・巨勢猿ら、任那復興のため二万余の軍を率いて筑紫に出兵。

592（崇峻 5）　蘇我馬子、東漢直駒を使い崇峻天皇を殺す。

593（推古 1）　推古天皇即位。厩戸豊聡耳皇子が皇太子ならびに摂政となる。四天王寺を難波の荒陵に造営。（紀）

594（推古 2）　天皇、皇太子と大臣（蘇我馬子）に詔して、三宝を興隆せしめる（仏法興隆の詔）。（紀）臣・連ら、競って仏舎を造る。

595（推古 3）　高麗（高句麗）の僧慧慈が来朝、皇太子の師となる。（紀）百済僧の慧聡も渡来。

596（推古 4）　法興寺が完成し、慧慈が移り住む。太子、慧慈・葛城臣らと伊予温湯に行く。

600（推古 8）　新羅に出兵し、五つの城を攻める。隋に使いを派遣。

601（推古 9）　太子、斑鳩宮をつくる。

602（推古 10）　百済の僧、観勒が来朝し、暦の本、天文地理の書、遁甲（占星術）・方術（占いの術）の書を奏上する。（紀）来目皇子、新羅を討つ二万五千の兵

を率いて筑紫に到着。

603（推古 11）　来目皇子歿し、当麻皇子を征新羅将軍とするが、妻の死により帰京。太子、秦河勝に仏像を授け、河勝、蜂岡寺（広隆寺）を造る。太子、大楯および鞍を作り旗幟に描く。冠位十二階を定める。

604（推古 12）　聖徳太子、十七条の憲法を作る。（紀）冠位十二階を施行する。朝礼を改める。

605（推古 13）　太子と馬子に詔して銅・繡の丈六仏像各一躯を造る。太子、諸王・臣に褶を着用させる。太子、斑鳩宮に遷居。

606（推古 14）　4 月 8 日、7 月 15 日に斎会を設ける――灌仏会・盂蘭盆会の始まり。太子、勝鬘経を講じ、また岡本宮で法華経を講説する。

607（推古 15）　聖徳太子、法隆寺（斑鳩寺）を創建。小野妹子を随に遣わす。（紀）壬生部を定める。詔を受け、太子と馬子、百寮を率いて神祇を祭拝。倭・山背・河内に池溝をつくり屯倉を置く。

608（推古 16）　妹子、隋使裴世清らとともに帰国。妹子ら再び隋に派遣され、高向玄理・僧旻ら留学。

609（推古 17）　妹子、隋より帰る。

610（推古 18）　高句麗僧曇徴、彩色・紙・墨・碾磑の法を伝える。

611（推古 19）　菟田野に薬猟。

612（推古 20）　正月七日（人日）の宴に馬子が寿歌を献上。堅塩媛を檜隈陵に改葬。羽田に薬猟。隋の煬帝、高句麗を責める。（～614）

613（推古 21）　太子片岡に遊ぶ。（紀）難波より京に至る大道を置く。

614（推古 22）　薬猟。犬上御田鍬らを隋に派遣。

615（推古 23）　高麗の僧慧慈、帰国する。

618（推古 26）　隋滅び、唐興る。（～907）高句麗の使、隋の滅亡を伝える。

620（推古 28）　太子と馬子、天皇記・国記等を記す。檜隈陵改修。

621（推古 29）　穴穂部間人皇女歿。

622（推古 28）　2 月 21 日、太子の妃没す。翌 22 日、太子、斑鳩宮で没す。橘大郎女ら天寿国繡帳を造る。（法隆寺金堂釈迦如来像光背銘・天寿国繡帳銘）ムハンマド、メッカよりメディナへ逃れる。（ヘジラ、イスラム暦元年。）

624（推古 32）　僧正・僧都を任命し、僧尼を監督させる。寺と僧尼を調査。（寺 46 カ所、僧 816 人、尼 569 人。）

626（推古 34）　蘇我馬子歿。

632（舒明 4）　ムハンマド没。（571～）

643（皇極 2）　蘇我入鹿、兵を遣わし、斑鳩の山背大兄王を襲う。王は逃れて斑鳩寺に入り、自害。

644（皇極 3）　7 月、秦造河勝、東国の人大生部多を討つ。（常世神事件）

645（大化 1）　中大兄皇子、中臣鎌足ら、蘇我氏を滅ぼし、大化改新始まる。孝徳天皇、仏教興隆を宣す。

646（大化 2）　孝徳天皇、詔して、墳墓・葬送・婚姻・奴婢・祓除の制を定める。

647（大化 3）　孝徳天皇、詔して、惟神の道を知らしめる。

652（白雉 3）　班田収授の法を実施し戸籍を作る。

663（天智 2）　日本軍、百済を助けて唐と白村江で戦い敗れる。百済、滅ぶ。

668（天智 7）　行基、誕生(～749)。高句麗、滅ぶ。

670（天智 9）　朝廷での礼儀などの制を発布。誣言と妖偽を禁止する。法隆寺炎上。

672（天武 1）　大海人皇子が大友皇子を破り即位（天武天皇）。壬申の乱。飛鳥浄御原に都を移す。

675（天武 4）　はじめて占星台を建てる。殺生と肉食を禁止する。

676（天武 5）　新羅の朝鮮半島統一始まる。

679（天武 8）　荒陵寺、四天王寺と改名。新羅でも四天王寺成立。

683（天武 12）　僧正・僧都・律師を命じ、僧尼を統領させる――僧綱制の成立。

685（天武 14）　家ごとに仏舎を作り、礼拝供養させる。僧尼を招いて、宮中で安居を行う。

699（文武 3）　役小角、伊豆に配流。(『続日本紀』)

700（文武 4）　道昭没し火葬する。

701（大宝 1）　『大宝律令』完成。翌年、大官大寺で僧尼令を説かせる。

708（和銅 1）　この頃、法隆寺再建。

710（和銅 3）　平城京に都を移す。

712（和銅 5）　『古事記』（太安万侶）成る。

717（養老 1）　百姓の私度を禁じ、行基の民間活動を禁圧。

718（養老 2）　『養老律令』完成。

720（養老 4）　『日本書紀』（舎人親王ら）成る。この頃、『上宮聖徳法王帝説』の主要部分成立。

734（天平 6）　優婆塞・優婆夷の得度の条件を法華経あるいは最勝王経を諳誦し、かつ浄行 3 年以上の者と定める。

741（天平 13）　聖武天皇、諸国の国分寺・国分尼寺の建立発願。

745（天平 17）　行基を大僧正に任ずる。大仏造立工事を平城京東辺（現東大寺地）に移す。

749（天平勝宝 1）行基、没する。

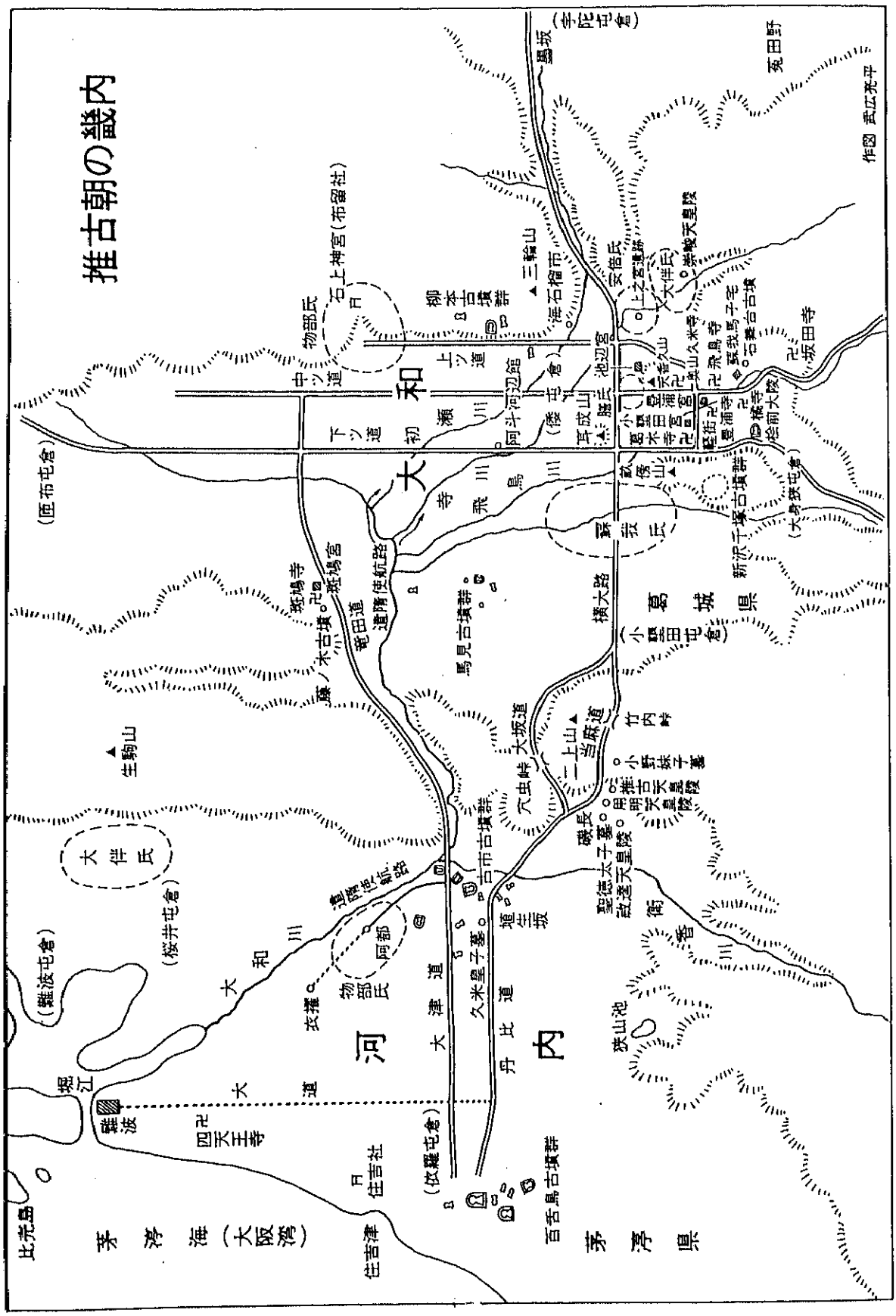
752（天平勝宝 4）東大寺大仏、開眼供養。

754（天平勝宝 6）唐僧鑑真来朝し、東大寺大仏前にて聖武天皇らに授戒。

759（天平宝字 3）鑑真、唐招提寺を建立。万葉集中もっとも新しいものこの年に詠まれる。

766（天平神護 2）道鏡、法王となる。

767（天平神護 3）最澄、生まれる。(～822)

771（宝亀 2）　敬明（教明）の『七代記』なる。
772（宝亀 3）　持戒・看病にすぐれた僧 10 人を選び、十禅師とする。
774（宝亀 5）　空海、生まれる。（～835）陸奥の国の蝦夷が抵抗。
781（天応 1）　桓武天皇即位（～806）
784（延暦 3）　長岡京に都を移す。
786（延暦 5）　この頃、『上宮皇太子菩薩伝』（思託）成立。
788（延暦 7）　最澄、比叡山寺（延暦寺）を建立と伝える。
794（延暦 13）　桓武天皇、平安京に遷都。
797（延暦 16）　空海、『三教指帰』を著す。『続日本紀』（菅原道真ら）成る。
802（延暦 21）　御斎会、この年より恒例となる。この頃、『上宮聖徳太子伝補闕記』成立。
804（延暦 23）　最澄・空海、入唐。
805（延暦 24）　最澄、帰朝し天台宗を伝える。
806（延暦 25）　空海、帰朝し真言宗を伝える。
810（弘仁 1）　崇道天皇（早良親王）らの怨霊を鎮めるため、130 人を度す。
819（弘仁 10）　空海、高野山に金剛峰寺を建立。
820（弘仁 11）　弘仁格式。
822（弘仁 13）　最澄没。この頃、『日本霊異記』（景戒）成る。
823（弘仁 14）　空海に東寺を賜る。教王護国寺と改称。
830（天長 7）　薬師寺にて最勝会。以後、恒例となる。
834（承和 1）　空海、宮中の真言院で修法を行うことを許される。以後、後七日御修法として恒例。
835（承和 2）　空海、高野山で没す。
863（貞観 5）　神泉苑で御霊会を修す。
866（貞観 8）　最澄に伝教大師、円仁に慈覚大師の諡号を追贈――最初の勅諡号。
903（延喜 3）　光勝（空也）、誕生（～972）。
917（延喜 17）　この頃、『聖徳太子伝暦』成るか。

参考資料（三）推古朝の畿内地図（黛弘道・武光誠編『聖徳太子事典』新人物往来社、1991年、314頁、より引用。）